スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県 渋川市

自 治 体 名 ： 群馬県渋川市
担 当 課 名 ： 渋川市教育委員会　学校教育課
電 話 番 号 ： ０２７９-２２-２１２１

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	240.4 ㎢
人口	72,010 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	1,647 人
運動部活動数	89 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	渋川市部活動地域移行庁内検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	渋川市学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた推進計画（検討中）

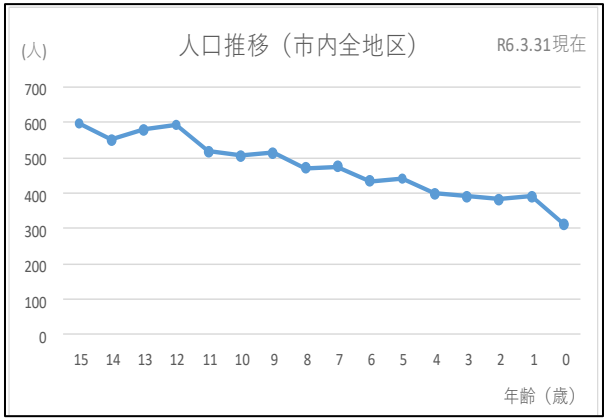
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

渋川市には９つの中学校があり、運動部活動については、16の競技種目がある。また文化部活動については、吹奏楽部が７校、美術部が５校で活動している。

渋川市の子どもは下記のとおり、年々減少傾向であり、その結果、教職員数も減少し、各中学校において部員数不足で部活動が成立しない状況がある。

このような中、渋川市では、「地域連携」として単独または合同チームにより活動が継続できる競技部に対して、部活動指導員や外部指導者を学校に派遣して生徒を指導している。一方で、活動困難な部活動については「地域クラブ」を立ち上げ、その地域クラブに生徒が参加する形で、部活動の地域移行を実施した。

今後の地域移行を進める中で、学校の垣根を越えて地域クラブ活動に移行する体制を構築し、生徒が様々なスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整備できるようにするため、指導者、施設管理、予算、移動、規程について検討する必要がある。



＜渋川市ホームページ上のデータより作成＞

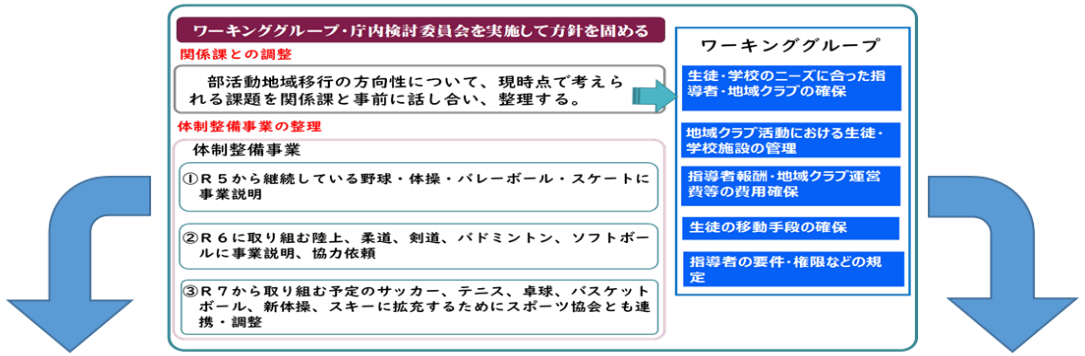
渋川市内の中学生の人数は、今後も減少していく傾向にある。

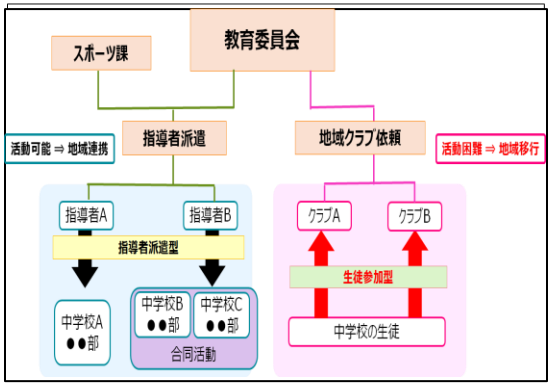
2.実証内容と成果

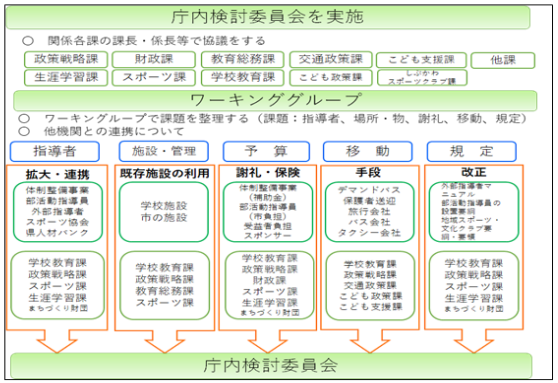
スポーツ庁

運営体制・役割

渋川市教育委員会内に部活動地域移行推進室を設置







●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・事務局（関係者・関係施設の地域移行について）

・学校、地域クラブとの連携

◉市長部局

・ワーキンググループを通して、課題解決に向けた協議への参加

年間の事業スケジュール

令和６年４月１日～令和７年２月２５日まで	・地域スポーツクラブ活動の実施（スケート、体操、軟式野球、バレーボール）、合同練習会の実施（柔道）
令和６年７月	・政策戦略会議（地域移行に向けて市長部局に説明）
令和６年１２月	・市長部局へ部活動地域移行に関する説明
令和７年１月	・第１回庁内検討委員会 ・体制整備事業実施調査（対象：地域スポーツクラブ） ・部活動地域移行ワーキング（課題について）
令和７年２月	・第２回庁内検討委員会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	9 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブの種目数	A：部活動を地域移行した形のクラブ（廃部又は地域移行し、市内中学校に部活動がない種目数）		2 種目
	B：地域連携と地域移行をしているクラブ （学校で現在も活動できる部活動と活動困難のため地域移行しているクラブの種目数）		2 種目
	C：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 種目
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	28人

②各クラブに関すること

クラブ名	ケース別種目	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
渋川クラブ	A	スケート	月 12 回／ 週 3 回	平日 19時～21時 土日（休日） 9時～12時	中学生３名 ※小学３年生～高校生まで参加	1 年間	夏季： 伊香保中学校 冬季： 高崎健康福祉大学伊香保リンク	5 人	5 人	月会費 5,000 円	中体連：クラブ
渋川体操協会	A	体操	月 8 回／ 週 2 回	平日：水曜 19時～21時 土日（休日） 9時～12時	中学生 1 名 小学生 5名 計 6名	1 年間	渋川北中学校	3 人	3 人	月会費 1,000 円	中体連：クラブ
ＳＹＣ	B	軟式野球	月 8 回／ 週 2 回	平日：木曜 19時30分 ～21時 土日（休日） 9時～12時	中学生22名 小学生 5名 計27名	1 年間	休日：赤城南中学校東グランド 平日：子持総合グラウンド	15人 （地域指導者10名、大学生5名）	15 人	月会費 3,000円	中体連：クラブ
ＶＣ渋川	B	バレーボール	月 12 回／ 週 3回	平日 ：水･木曜日 19時～21時 土日（休日） 9時～12時	中学生37名 小学生12名 計49名	1 年間	• 長尾小学校体育館 • 渋川北中学校体育館	5 人	5 人	月会費 500円	※大会不参加 基礎技術向上のため

2.実証内容と成果

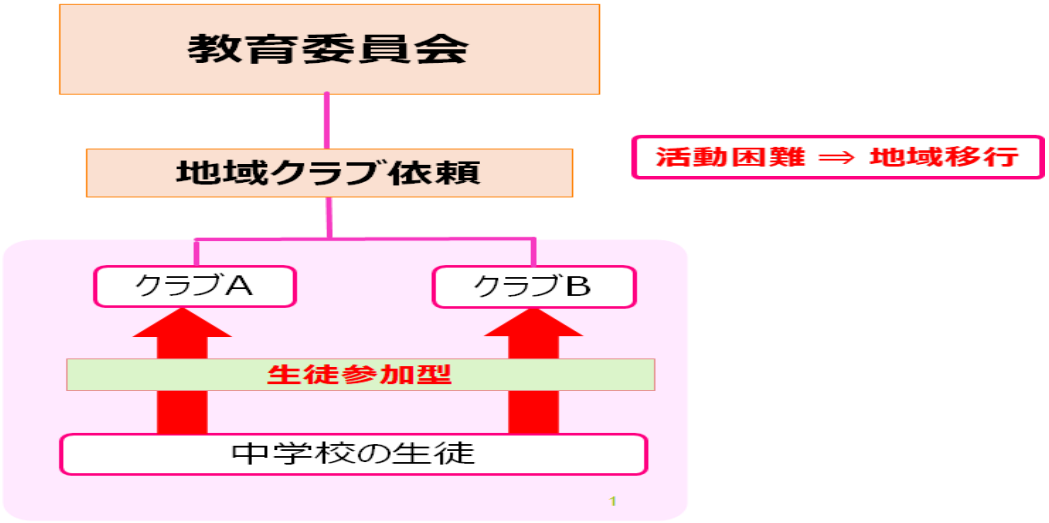
スポーツ庁

主な取組例

●地域スポーツクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・スケート ・体操 ・軟式野球 ・バレーボール
運営団体名	それぞれの地域スポーツクラブ
期間と日数	各種目　：4月1日 ～ 2月25日 月８～12回程度 ※平日1，2回と、土日休日のどちらか１日を利用する（「適正な学校部活動の運営に関する方針」をもとに）
指導者の主な属性	教員退職者、自営業者、学生
活動場所	学校施設 （※スケート:高崎健康福祉大学伊香保リンク）
主な移動手段	保護者による送迎
１人あたりの参加会費等（月額）	スケート：5,000円 体操：1,000円 軟式野球：3,000円 バレーボール：500円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●クラブ組織やクラブ運営スタッフなどの役割分担等

●代表（１名）
役割：代表は、クラブを代表し、会務を整理する。

●副代表（若干名）
役割：副代表は代表を補佐し、代表が事故あるとき又は代表が欠けたときは、その職務を代行する。

●会計　（１ 名）
役割：会計は、クラブの会計事務を処理する。

●監事　（２名）
役割：監事は、会計及び会計状況を監査する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

（１）運営団体・実施主体の運営体制整備や人材の確保など学校や関係部局、関係団体との連携

（２）部活動地域移行における現状について、小中学校長への説明等、啓発・共有・周知

（３）教育委員会（教育総務課、生涯学習課、学校教育課）と市長部局の関係各課（政策戦略課、財政課、こども政策課、こども支援課、スポーツ課、交通政策課）との間で学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けて連携の強化

取組の成果

運営団体・実施主体の運営体制整備や人材の確保など学校や関係部局、関係団体との連携

第１回庁内検討委員会を実施し、協議後に部活動地域移行ワーキンググループで課題の整理をした。関係各課との間で実状と課題等を共有することでき、状況を把握することができた。また、第2回庁内検討委員会で情報共有し、共通理解をすることができた。関係各課から取組に対する今後を見据えた発案もあり、部活動地域移行に向けた進展が見られた。



＜庁内検討委員会＞

今後の課題と対応方針

部活動地域移行に向けた課題を「指導者の確保」「施設・管理」「予算」「移動」「規程」の５つに分けた。関係各課でワーキンググループを実施する中で、解決ができそうな課題、今後継続的に検討していく課題、ワーキングにより明らかになった新たな課題に整理した。今後は、これらの課題に対して、関係各課だけでなく、学識経験者や学校関係者等を含めた部活動推進委員会を実施して課題の解決策を協議していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

これまで配置していた部活動指導員、及びスポーツ課で配置している外部指導者を中心に、市スポーツ協会各競技部と連携した指導者資格をもつ指導者の確保

取組の成果と課題

現在任用している部活動指導員に対して研修会等で部活動地域移行に向けての情報共有をすることができ、指導依頼を進めることができた。また、関係各課、関係団体と連携する中で、渋川スポーツ協会、渋川まちづくり財団しぶかわスポーツクラブと情報共有することができた。しかし、今後受け皿となる地域スポーツ団体への情報提供等はまだできないため、次年度は協力依頼を進めていく。

登録者属性

○　部活動指導員

（１）渋川市部活動指導員任用要領に基づき、次のア～ウのいずれかを満たす者

ア．教員免許を所有している者

イ．公益財団法人日本スポーツ協会等が認定する指導者資格を所有する者

ウ．学校の部活動において指導した経験を有する者、又は地域のスポーツ及び文化活動において指導した経験を有する者

（２）技術指導に堪能で、20歳以上である者

（３）当該校の部活動運営方針を理解するとともに、部活動に深い理解と熱意を有する者

○　外部指導者

（１）各中学校長からの派遣依頼により、市スポーツ協会各専門部長の承認または推薦を得た人を外部指導者として決定し、市スポーツ課より派遣する。

（２）外部指導者は、市から公式に派遣される指導者であるため、公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格又は各競技連盟等が定める指導者資格を保有している必要がある。

種目

○　部活動指導員

（１）ソフトテニス
（２）柔道
（３）剣道
（４）陸上

○　外部指導者

（１）ソフトテニス
（２）バドミントン
（３）柔道
（４）剣道
（５）卓球
（６）バレーボール
（７）サッカー

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

部活動地域移行を視野に入れた合同部活動や地域クラブ活動は、市中学校体育連盟や市内中学校と情報共有し、学校の施設・設備等を使用して、活動を実施している。

取組の成果

体制整備事業実証研究（スケート・体操・軟式野球・バレーボール）においては、学校体育施設を活用した。体操においては、移行前に利用していた体育館を使用しているため体操器具がそろっており、練習を充実させることができた。クラブと学校が練習場所の日程調整について連絡を取り合い、活動場所の確保について連携をすることができた。軟式野球ではベースなどの使用する道具についても、学校と連携をし、借用することができた。



＜学校体育館施設と器具の利用＞



＜学校体育施設の利用＞

今後の課題と対応方針

学校部活動や他の利用団体と学校施設の利用調整を図っていく必要がある。また、地域スポーツクラブ活動が学校施設や市有施設を使用する場合の優先利用や使用料減免の仕組みを整えていく必要がある。さらには、市有施設（運動場等）を管理する、都市政策課等の関係機関とも情報を共有し、活用できる場所の確保に努める必要もある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動地域移行推進室として
（１）地域クラブ活動体制整備に向けた庁内検討委員会等の開催
＜概要＞年９回（７月1回、12月１回、１月６回、２月1回）
（２）地域スポーツクラブ体制整備

＜活動団体＞
① 渋川クラブ（スケート）
② 渋川市体操協会（体操）
③ ＳＹＣ（渋川野球クラブ）
④ ＶＣ渋川（バレーボール）
＜対象参加者＞
① 渋川市内の中学生
② 渋川市内の中学生
③ 渋川市内の小学生・中学生
④ 渋川市内の中学生
＜運営団体・実施主体との連携及び体制整備の概要＞
- 学校の部活動指導に関わっていた指導者や連盟に協力依頼をし、取組を開始した。
- まずは土日（休日）の取組を中心として始めた。
- 教育委員会の部活動地域移行推進室が中心となり、地域スポーツクラブと連絡調整を図りながら実証事業に取り組んでいる。
- 活動場所については、地域スポーツクラブが学校と活動日の調整をして確保している

＜運営団体・実施主体、指導者、学校等への支援＞
- 市内各小中学校長に対して地域移行の現状と方向性について説明を行った。
- 地域スポーツクラブの活動に訪問をし、実証事業の成果や、今後の課題についての情報共有をした。

●成果

- 渋川市の生徒にとってよりよい部活動の環境の整備をするための検討をすることができた。また、土日（休日）の部活動の段階的な地域移行に向けて、庁内で情報交換をすることができた。
- 地域の受け皿となることを検討しているクラブと意見交換をし、体制整備実証に向けた話合いをすることができた。
- 合同練習という形で地域の生徒を集め、実証事業を行うことができた。専門的な指導を受けることができ、充実した活動になった。
- 昨年度より継続して取り組んでいるクラブについては、平日の活動に取り組むこともできた。

●課題

- 生徒や学校のニーズにあった指導者が確保できず、地域クラブとしての体制が整わない競技もある。
- 鍵の借用方法や、教室を開放することによるセキュリティー上の問題がある。
- 持続可能な活動にするために、指導者報酬や賠償保険、地域クラブ運営費などの費用確保について検討していく必要がある。
- 活動場所までの送迎等、保護者の負担がある。
- 規程・規約作りの難しさがある。

●今後に向けて

- 他市町村と連携や情報共有をすることで、取り組むべき課題と推進していく方向性を確認する。
- 予算確保をするためには様々な機関との調整が必要となる。連携を密に取り、試算を含めた予算の整理を早期にしておく必要性がある。

2.実証内容と成果②

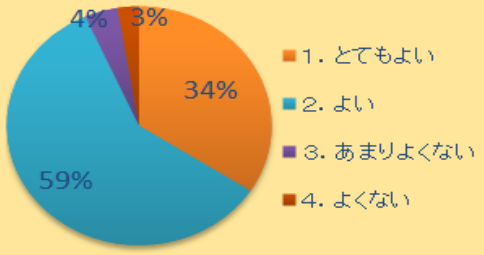
スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ち

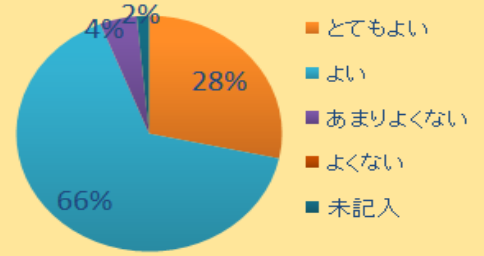
生徒



理由　地域クラブに参加する生徒より

- 専門的な知識で教えてもらえる
- 地域の方と話せる機会が増えるから
- 自分にあった技術を身につけられるから
- 丁寧な指導をしてくれる
- 生徒減少の実態にあった取組でよいと思う
- 地域が一体になれる

保護者

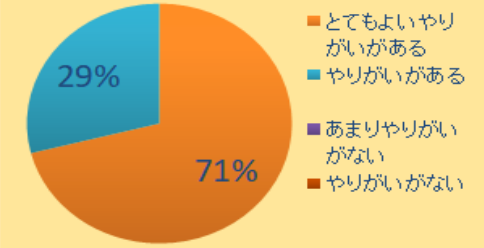


理由　地域クラブに参加する生徒の保護者

- スポ少とのつながりがもあり、部活との両立ができ、アドバイスや練習の機会が多くなる
- 部活動だけでは時間的制約も多く、活動に限りがあるただ、地域の指導者への負担も気になる
- 学校部活動では選べないスポーツに取り組める

Q.「地域スポーツクラブ活動」で、指導することについて、あてはまる気持ち

指導者



理由　地域クラブ　指導者より

- 子どもたちにスポーツができる場所を提供できている
- 子どもたちの成長を近くで感じることができる
- スポーツを続けたい子どもたちの支援をしたい
- スポーツの魅力を伝えるだけでなく、自分自身の新たな学びの場として人生観を高めることができる

●参加者の声

（中学生）よい点

・様々な先生の指導が受けられる
・交流が増えた
・自分のよいところ、わるいところが分かる
・専門的な指導で技術力を上げられる
・練習人数が増えてよかった
・学校部活動に入部したい競技種目がなかったから
・放課後の時間が多く、家庭学習の時間が増やせた

（中学生）心配・不安な点

・送迎（父と母が仕事をしているため、送迎ができるか不安）
・面識のない人と練習するとき、怪我等の心配や不安があった
・指導者により指導方針、指導法が異なる時があった
・他校の生徒と上手くやっていけるか心配
・指導者が変わるため、信頼関係等が心配
・クラブの日程と学校行事（学習等）の日程に負担にならないか心配
・クラブに入っていない学校部活動での仲間との交流が減る

（保護者）よい点

・専門知識をもった指導者のもとで正しい指導が受けられる
・他校の仲間と交流ができ、情報交換ができる

（保護者）心配・不安な点

・練習場への送迎等が時間により難しくなるため心配
・金銭的な負担が増えることが不安
・他校の仲間との交流で孤立しないかが心配

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【地域施設（高崎健康福祉大学伊香保リンク）を活用して練習（スケート）】



【中学校体育館の活用（体操）】



【地域と協力して交流会を実施（軟式野球）】



【技能向上のための練習クラブ（バレーボール）】

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

今後の渋川市部活動地域連携・地域移行の方向性について

ロードマップ

（1）短期的（令和6年度）
・庁内検討委員会の実施
・関係各課とワーキンググループを行い、その課題を共有していく
・体制整備事業を9種目（野球・体操・バレーボール・スケート・陸上・柔道・バドミントン・ソフトボール・剣道 ）に拡充し、部活動地域移行の受け皿として準備をしていく

（2）短期的（令和7年度）
・部活動地域移行推進委員会の実施
・必要に応じて関係各課とワーキンググループを行い、課題を整理
・体制整備事業をさらに拡充

（3）中期的（令和8年度中）
・土日の部活動を地域のクラブ活動へ移行
・指導者の確保、謝金、移動等の課題について継続的に各課と連携・調整

（4）長期的（数年後）
生徒が様々なスポーツ活動や文化芸術活動に親しむことができる環境を整備していく